

親の学びが、これからの子育てを支える

— 20年目のリニューアルで、さらに参加しやすく —

県教育委員会では、「学校、家庭、地域で取り組む子どもの成長支援」を第3期富山県教育振興計画の基本方針の一つに掲げ、家庭教育の支援に継続的に取り組んでいます。その中でも、今年度は、「親を学び伝える学習プログラム」を活用して身近なエピソードを起点に話し合う「親学び講座」が、事業開始から20年目の節目を迎えることから、さらに充実するための新しい取り組みを実施します。

まず、これまで多くの方に参加いただいた親学びのよさを大切にしつつ、時代の変化や子育て世代の声を反映できるように、より使いやすく共感しやすい新しいプログラムを作成します。また、これまで参加していない方にも「親学び講座」の魅力を届けるために、動画コンテンツの制作も進めます。

5月27日(火)に開催した今年度の「第1回とやま親学び推進協議会」では、小・中学校、幼稚園・保育園、PTA、市町村教育委員会などの代表者が集まりました。協議会では、「新しく推進リーダー(※講座の企画運営の協力者)になった方の不安を和らげる場を設けたい」「乳幼児の保護者を対象にした親学び講座も実施していきたい」などの前向きな提案や、多様な立場からの具体的な意見が出されました。

親の学びが親自身の力になり、地域の支え合いにつながるよう、20年の歩みを糧に、取り組みを進めます。



第1回とやま親学び推進協議会

学校における食育の推進 ～地域や家庭と連携した取り組み～

令和6年度学校給食優良学校等表彰校の実践より

高岡市立戸出東部小学校

高岡市立戸出東部小学校では、学校給食を「生きた教材」として積極的に活用し、食育を推進しています。家庭や地域への情報発信にも工夫を凝らしています。

6年生児童は、高岡市公式クックパッド「高岡にここにキッチン」※に掲載されている朝食レシピを家庭でつくる「おうちでチャレンジ!朝食レシピ」で取り組みました。いくつもある朝食レシピの二次元コードからレシピを1つ選んで読み込み、夏休み中に各家庭で朝食づくりを実践しました。2学期の家庭科の授業では、栄養教諭から朝食の大切さについて話を聞き、自分の実践とつなげて学びを深めました。

※高岡市では、市内栄養教諭・学校栄養職員が考えた、簡単につくれる朝食レシピを高岡市公式クックパッド「高岡にここにキッチン」に掲載しています。

富山県立富山総合支援学校

富山県立富山総合支援学校では、全児童生徒にとって安心安全な給食実施のため、個々に合わせ食形態や食器具に工夫を凝らしています。

総合的な学習の時間では、中学部の生徒が地元の食品加工会社を見学し、SDGsの視点から食に関する学びを深めました。生徒は見学をきっかけに、自校における給食の残食量を減らしたいという思いを強くしました。そこで、栄養教諭、調理員の方と連携した残食調査を行ったり、給食新聞や標語で呼び掛けたりするなど、SDGsの輪を校内に広めました。その結果、給食の残食量は調査前に比べて減り、このことを学習発表会等の場で保護者や地域の方に発表し、「家庭や地域でもSDGsに取り組んでほしい」と呼び掛けました。

県教育委員会では、男性教職員の育休取得率の向上を目指しています。そこで今号より、実際に育休を取得された先生方の「育休体験記」を連載します。

育休体験記 No.1 富山県立滑川高等学校 高木 良輔 先生に聞きました！

育休をとろうと思ったきっかけを教えてください 育休期間：令和6年4月～9月（生後1か月半～7か月半）

第一子誕生の際、同じく第一子誕生予定の男性の先生が育休をとる予定だという話を聞いたことです。そのときに「育休を取得する」という選択肢が自分の中に生まれ、妻に提案すると「ぜひ取ってほしい」と言われました。

育休中の生活について教えてください
家事や育児をきっちりと担っていたわけではなく、そのときでできる人がするという約束で、ミルク、着替え、おむつ、お風呂、掃除、料理など、何でもしていました。

育休を終えた今の気持ちをお聞かせください
子どもが初めて寝返りをうった瞬間や、初めて離乳食を食べたときのリアクションなど、たくさんの初めてを見ることができ、育休を取得してよかったなと思っています。

これから育休をとろうとされている方へ一言
自分の代わりにを務めてくださる先生はいらっしゃいますが、親の代わりにできる人は他にいません。必ず充実した日々になるので、できるだけ長く育休を取得されることをおすすめします。 貴重な体験談、ありがとうございました！

永年勤続教職員表彰式

7月1日（火）、令和7年度永年勤続教職員表彰式が県民会館で行われました。県全体では、勤続年数30年が178名、勤続20年が235名、合計413名が表彰を受け、その代表者に表彰状が授与されました。
廣島教育長は、式辞で謝意を表しました。
これに対して、柴田由明黒部市立明峰中学校長が、代表として謝辞を述べられました。



令和8年度 富山県公立学校教員採用選考検査の実施について

わくわくする教室、わくわくする学校、
わくわくする「ふるさと富山」を、子供たちと一緒につくりませんか？
たくましく生きる力を持った“富山の子ども”をはぐくむため、意欲と情熱のある人を求めています。

6月2日に今年度の出願が締め切られ、大学3年次の志願者を含めて910名（前年比22名増）の出願がありました。

今年度検査の概要

1. 受検区分

〔一般選考〕と〔特別選考〕（「社会人経験A」「社会人経験B」「教職経験」「特定資格」「国際貢献」「スポーツ実績」「障害者」「大学推薦」）

2. 今年度実施の教員採用選考検査の変更点

①県外の国公立学校の現職教員で、本県への移住を希望する者を対象とした冬選考の実施

- ②複数免許取得者や多様な専門性を有する教員を確保するため、1次検査の加点対象に従来の特別支援、情報、英語の免許や資格に加えて、司書教諭及び幼稚園教諭（特別支援受検者を対象）を追加
- ③教員免許状を有しない者を対象とする特別選考の条件を緩和（オリンピックの競技者の追加等）
- ④1次検査の専門教科筆答検査の検査時間の短縮

3. 検査期日

第1次検査：令和7年7月12日（土）・13日（日）
第2次検査：令和7年8月23日（土）・24日（日）

4. 合格発表

第1次検査合格者：令和7年8月上旬までに発表
名簿登載者：令和7年9月下旬までに発表

5. 採用予定人数

一般選考・特別選考合わせて320名程度
（名簿登載B20名程度及び特別選考「障害者」若干名を含む）

	小学校	中学校 高等学校	特別支援 学校A	特別支援 学校B	養護教諭	栄養教諭	計	
一般選考	322 (192)	389 (295)	27 (22)	10 (10)	53 (50)	10 (10)	811 (579)	910 (678)
特別選考	32	51	13	0	3	0	99	
前年比	△6 (△9)	+32 (+8)	+1 (+4)	△5 (△5)	+7 (+8)	△7 (△6)	+22 (0)	

（ ）は大学3年次での志願者を除いた数字

総合教育センター **NOW**

教育研修部

幼児教育のプロを目指して～新規採用教員研修(幼稚園教諭・保育教諭)～

標記の研修会は、幼稚園教諭、保育教諭として職務に必要な知識・技能や心構え等の研修を行い、使命感を養うとともに実践的指導力の向上をねらいとしています。

第1回の研修会では、講義と演習を行いました。現職の園長先生から「教員としての心構え」について具体例を交えて教えていただきました。「園児が遊びを通して学んでいくためには、環境の構成や保育者の援助が欠かせないこと、教員同士の人間関係も環境として大切であること」を話されました。その後、グループになって学んだことや、自身のこれまでの振り返って気付いたことや考えていることを伝え合いました。

研修後の振り返りでは、「子どもたちが遊びや生活を通して学ぶように、私たち保育者も学び続ける専門職であることに気付いた」「不安や悩みを抱えているのは、自分だけじゃないと気づき、大きな安心につながった」「子どものよいところを伝え合える関係を園の先生方とも築いていきたい」という言葉が聞かれました。

これからも、保護者との連携や特別な支援を必要とする子どもへの支援等、保育のプロとして学ぶことはたくさんあります。各園に一人ずつの配置であることが多く新規採用教員だからこそ、研修会で出会う仲間との横のつながりも大切にしながら、富山県の子どもの学びに向かう力を育む質の高い教員に育ってほしいと願います。



心肺蘇生法の演習

科学情報部

科学技術教育普及活動「サイエンスカー訪問活動」 ～科学を思いっきり楽しもう!みんなでできる観察・実験～

科学情報部では、科学技術教育普及活動の一環として昭和43年より「サイエンスカー訪問活動」を行っています。この活動は、対象の小学校等を訪問して、理科工作や観察・実験を行うものです。今年度もトレードマークのカラフルなシャツを身にまとったスタッフが、各種実験機材を積んだサイエンスカーで県内を回り、ユニークで楽しい活動を行います。

対 象 児童数120名以下の県内小学校・義務教育学校(前期)・特別支援学校(小学部)

期 間 5月末から12月中旬

内容(例) (低学年) しゃぼん玉遊び、飛行機作り、空気遊び
(中学年) 葉脈標本作り、風船ホバークラフト作り、ゴムで動かそう
(高学年) 簡易モーター作り、月の満ち欠け、バーチャル火山噴火

※詳しくは総合教育センターウェブサイトをご覧ください。

(デジタル理科室 <https://www.digirika.tym.ed.jp>)



月の満ち欠け



しゃぼん玉遊び

教育相談部

本人や保護者、学校関係者からの相談をお受けします

■富山県内の小学生、中学生、高校生の相談をお受けします。発達に心配のある未就学児についても相談をお受けします。

■電話相談・受付時間 月・金曜日13:00～17:00 火・水・木曜日9:00～12:00、13:00～17:00 (来所相談は予約が必要です)

いじめ・不登校・進路・人間関係

相談専用 TEL (076) 444-6167 (子ども育成)

- ・ いじめられている
- ・ 遅刻や欠席が増えた
- ・ 朝、体調が悪くなる
- ・ 教室に入りにくい
- ・ 進路について悩んでいる
- ・ 生活態度や習慣が気になる
- ・ 急に元気がなくなった
- ・ 登校しぶりがある
- ・ 学校生活になじめない
- ・ 勉強する気になれない
- ・ 友達とうまくつきあえない など

発達・就学・学習・気になる行動

相談専用 TEL (076) 444-6351 (特別支援教育)

- ・ 言葉が遅れている
- ・ 理解する力が不足している
- ・ 基本的な生活習慣が身に付かない
- ・ 就学や進学について悩みがある
- ・ 読むことや書くことに時間がかかる
- ・ 急に予定が変わるとパニックになる
- ・ 慢性の病気がある
- ・ 体の動きがぎこちない
- ・ 落ち着きがない
- ・ ちょっとした物音で気が散る
- ・ 特定のものや事柄にこだわる
- ・ 順番を待つことが難しい など

「富山県こども総合サポートプラザ」 CiC5階にオープン

■県のこどもに関する4つの相談機関を集約し、いじめや不登校、非行、ニート、ひきこもりなど様々な悩みや課題を抱えるこどもや家庭からの相談に各専門機関が連携して対応する施設です。総合教育センター教育相談窓口もあります。

■開館日: 月～土、祝日(日曜日、年末年始、CiC休館日(原則、毎月第3火曜日)はお休みです)

■開館時間: 10:00～18:00

ウェブサイトはこちらから
<https://www.pref.toyama.jp/kodomosupport/>

